

ワオキツネザルの単独飼育解消のための群れ編成 ～ワオバアちゃんの群れ入り～

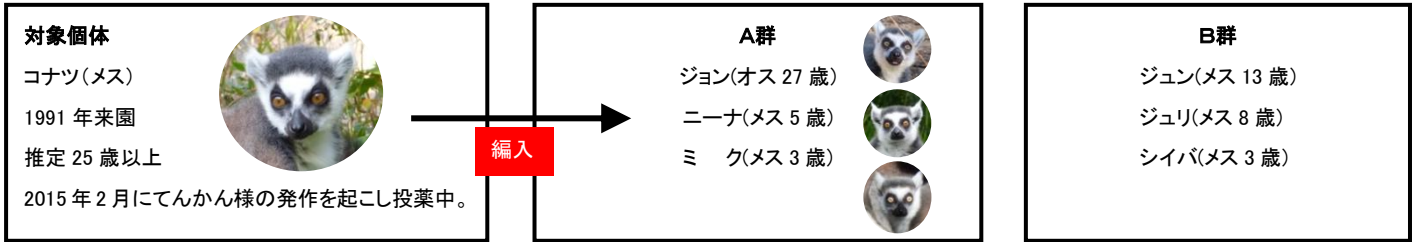
高知県立のいち動物公園 末村夏子

経緯

2014年3月にペアで飼育していたオスが死亡して以来、高齢メスのコナツが単独飼育(A群3頭、B群3頭、コナツの3群)となる。
2014年8月～A群への群れ入りを試みるが、コナツが警戒して歩み寄らず
2015年1月に一旦断念。
2015年6月～再度群れ編成を試みる。

方法

期間:2015年6～10月
環境:サブパッドック(約11.6㎡)
屋外展示場(ウォーターモート式 約90㎡)
①1対1で各々コナツと見合い、同居をおこない関係作りをする。
②その後、友好的な個体や劣位の個体からコナツ群に順次加えていく。
③優位な個体や好戦的な個体は後から加える。



作戦(付加した条件)

高齢で単独生活が長かったコナツは、見合いの様子からも他個体に攻撃するとは考えにくかった。
そこで同居の際は、コナツから他個体に歩み寄りたくなるような状況や、他個体がコナツを攻撃しないような状況にするため、以下のような条件を付加した。

作戦名	時期	方法	効果	
網とヒト作戦	初めて～初期の同居	ヒトが網を持って同居スペースに入り同居する。	ファーストコンタクトで闘争になるケースが多いため、ヒトに注意を向けさせそれを防ぐ。共通の敵(=網を持ったヒト)の存在で連帯感を感じさせる。	
台風11号作戦	闘争もしないが接触もないマンネリ化が見られる時	荒天時に安全だが不安感を抱く場所で2頭だけにする。	一定の距離に近づかれると逃げていたコナツが優位な個体の接近を許容し、同一の寝台上で身を寄せ合い「団子」になっていた。	
劣等感作戦	慣れてきて優位個体が劣位個体を攻撃する時	優位個体を群れから外す時間を作る。遅れて群れに参加させる。	コナツは先住権により、動きに余裕が出た。後から群れに加わった優位個体には、遠慮がちな様子が見られた。	
他群意識系	近くにいる	マンネリ期	他群の音声を聞かせる。	反応は大きかったが、群れの結束が全くない時期に行ったため明らかな効果は得られなかった。群れ編成がほぼ完了してから、もしくはできあがった群れが少し崩れそうな時などは効果が期待できそう。
	攻めてきた	個々の関係はできつつあるが群の結束が今ひとつな時		



餌を巡っての関係悪化

コナツとニーナの関係が安定してきた頃、同居時に餌を設置したところ、ニーナがコナツを攻撃。強い攻撃ではなかったが、コナツが萎縮してしまい、関係修復まで2ヶ月半を要した。空腹での同居はイラつきを増大させることがあるが、餌への執着が高い個体との同居の際、嗜好性の高い餌のある状況で行う場合は慎重な見極めが必要であった。

群れを維持するための対策

- 一定のスペースの確保。それが難しい場合は寝台を増やす、個体間の視界を遮る避難場所などの居場所を設ける。
- 餌を複数個所に設置、もしくは劣位個体と優位個体で別々、または時間差で給餌する。
- 一度闘争になってしまうと修復には時間を要するため、優位個体が勢いついてきていると感じたら、分離する時間を作るなどして未然に闘争を防ぐ。

群れ編成によって得られた効果

群れ入り後、コナツには食欲上昇、沈鬱傾向の減少、行動の活発化、毛並みの改善などが見られた。群れ編成の間、一時的に単独飼育となった高齢オスのジョンにおいて行動の不活発化、食欲の減退などが見られたことから、群れ飼育は行動や採食の活性に効果があると考えられた。

